

イエスは主なり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 172号

イエスは「神の然り」である。

Ⅱコリント1:20

横山 義孝



この度日本クリスチャンアシュラム連盟の定期理事会（6/20～21）が開催され全国理事十数名が「イエスは主である」の告白のもと祈り交わり、大事な課題について協議の時を持つことができました（詳細報告は次号）。プログラムの最初において、E・スタンレー・ジョーンズの最後の著作である「神の然り」の発題（安藤脩理事）協議研修の時を持ち、スタンレーアシュラムの中心テーマを一同で確認することができて幸いでした。

スタンレーは1907年（23歳）でインドに召命をうけて以来89歳にいたる生涯のすべてをインド民衆への宣教に献げたのです。しかしその歩みは平坦ではありませんでした。気負いと野心を持って使命に挑戦したのですが、特殊なインド社会の故に、最初の8年間で緊張と神経の消耗によって脳の衰弱を来し、帰米して一年の休養を取らざるをえなくなり、再び任地に戻った後も

彼の健康は粉碎されたままの状態でした。万策尽きた時、ラクノウの教会で祈りの中で細き神のみ声を聞いたのでした。「もしお前が心を巡らせてその問題をわたしに帰し、それについて思い煩わぬならば、わたしがそれを処理するであろう」と。彼が「主よ、わたしはここですぐ約束をとりきめます。」と主に凡てを明け渡した時から聖霊による自由と命の生涯へと変えられたと証ししています。

このキリストへの明け渡しの経験が「神の然り」テーマとなっており、1971年の卒中で倒れた出来事のなかにも、この「神の然り」は私に於いて成就したと証ししているのです。その最初の章で①主イエスは神の然りである。②イエスは神に対する然りである。③人間性は（イエスにあって）改変されうるという然りである。④イエスは聖霊の充滿に対しての然りである。と述べています。全ての思想、宗教、人生哲学が求めている渴望と解放はイエスに於いて達成される意味において、イエスは神の然りなのです。ハレルヤ。

（日本基督教団東京新生教会協力牧師）

霊 想



「宣教の拡大と

救いの原則」

使徒3章1-19節

日本同盟基督教団

大分恵みキリスト教会牧師

岡山 敦彦

使徒の働き3章は有名な聖書の箇所です。また、何度も説教で聞いた箇所でもあります。エルサレムの神殿には、異邦人の庭と婦人の庭の間に「美しの門」と呼ばれる門がありました。そこに毎日運ばれてきて、宮に入る人たちに施しを求めている男がいました。彼は四十歳余りで、生まれた時から足が不自由で、施しを受ける以外に生きるすべはありませんでした。ペテロとヨハネは午後3時の祈りのためにこの門の前を通り過ぎようとしました。彼は、親切そうな二人ならきつといくらかの施しをしてくれると考えました。しかし、ペテロは彼に向かって言いました。「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレの

イエス・キリストの名によって歩きなさい」。すると、彼の足とくるぶしが強くなつて、おどりが上がつてまっすぐに立ち、歩き出したのです。しかも、彼はペテロたちにつきまといつていたので、その光景を見た人たちは驚きあきれてしまいました。

この出来事は、ひとりの男のいやしと救いの話ではありません。エルサレムで、弟子たちによってイエス・キリストの救いの福音が伝えられて、多くの人たちが救いにあずかった事実を伝えようとしているのです。ペンテコステの日、ペテロの説教によって、三千人ほどの人たちが救われ、バプテスマを受けて弟子に加えられました。その後、この男のいやしによって集まり、みことばを聞いた人たちが信じて、男の数が五千人になつたと聖書は記しています。ペテロの語るみことばによって、福音が広く伝えられて、信じる人たちが多く起こされたことが分かります。

次に、ひとりの魂が救われるには、どのようなことが必要なのかを学ぶことが大切です。第一に、足のなえた人が、イエスの御名を信じる信仰を持つていたことです。彼は、数か月前にエルサレムでナザレ人イエスが捕らえられ、裁判にかけられて、十字架上で死に、そして3日目によみがえつた話を見聞きしていました。

自分もイエスの救いにあずかりたいと心から願っていました。救いにはこのような明確な信仰が大切です。

第二に、ペテロたちの心に、救いが必要な人たちに対する愛が芽生えていました。彼らは、いつも祈りを捧げるために神殿に行っていました。これまで何度もこの男の前を通つたはずですが、しかし、気にも留めずに通り過ぎていました。しかし、その日は違っていました。ペテロはこの男に語りかけたのです。「金銀は私にはない。ナザレのイエス・キリストの名によって歩きなさい」。

第三に、ペテロは、「自分の力によってこの男の人を歩かせたのではない。イエスの御名によるのだ」と繰り返し言っています。神が私たちを救うためにお遣わしくくださった救い主「イエスの御名」が、この人を立たせ、神を喜び賛美する者へと造り変えてくださったのです。よみがえりの「イエスの御名にこそ、いやしと救いの力があるのです」。

イエスへの信仰、宣べ伝える者の愛そしてイエスの御名の三つが揃つてこそ、魂の救いが成し遂げられることを覚えましょう。

最後に、すばらしい福音を宣べ伝えるとき、私たちの心に恐れが生じます。それに打ち勝つ方法は何か

でしょうか。聖霊に満たされることです。ペテロは、イエス様が裁判にかけられたユダヤ人議会の真ん中に立たされましたが、聖霊に満たされて、人を恐れず、神を恐れて復活されたイエスを宣べ伝えました。聖霊は、信じた者の心の中に住んでくださり、励ましてくださるお方です。だから、私たちも、聖霊に満たされて大胆に救いの福音を宣べ伝えていきましょう。

立 証

「一日静聴会の恵み」

沼津シオン・キリスト教会会員

堀内 稔



「関東アシラムの恵みを教会にも」との願いを持って「第7回一日静聴会」を2012年10月28日午後1時から3時、12名の出席者があり、沼津シオン・キリスト教会（荻野倍弘牧師）で開きました。

オリエンテーションでは、日本アシラム50年記念「神の漁り人」をプリントし、スタンレー・ジョーンズ博士の「アシラムとは何か」を要約し読みあげました。新聖歌22「主の愛が汝が内に」を賛美し、黙示録21章18節を読み祈禱。聖書の箇所は、ヤコブの手紙5章1節から20節とヨハネの黙示録21章1節から27節を20分間、静聴の時をもちました。「イエスは主である。」「イエスは甦られた。」のアシラムの挨拶を3回くりかえした後、私の祈りの課題である、祈ってもらいたいこと、私の願い（ニード）を発表しました。祈りの課題は、家族の問題や進路、神学、きよめのこと等が語られました。質問には、助言者の荻野先生の適切な説明があり、全体の祈りでは、一斉にとりなしの祈りを捧げ、自分の願いを加えて、信仰と感謝をもって祈りました。

私は2011年10月27日体調を崩し、1カ月の入院を余儀なくされました。「挑戦と応戦」（チョー・ヨンギ元老牧師）のメッセージを読み、「一日静聴会」の継続を願って祈り

ました。このことで天国に対する希望や憧れを強くもつようになりました。

「一日静聴会」は、沼津シオン・キリスト教会が2009年5月17日創立50周年を迎えました時、信徒による奉仕活動を、という願いから誕生しました。年3回（2、6、10月）実施しています。

私は2009年頃、22歳の時、山梨県清里で行われたアシラム聖会に参加しました。アメリカからインド宣教に派遣されたメソジスト派の宣教師スタンレー・ジョーンズ博士と通訳者安村三郎博士の助言のもと、静寂の中の「開心の時」でした。会衆からのニードを丁寧にノートに書き込んでいた博士の姿が記憶に残っています。みことばは、「あなたがたはイエス・キリストを見たことはいないけれども愛しており、いま見えてはいないけれども信じており、ことばに尽くすことにできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。これは、信仰の結果である。たましいの救いを得ているからです。」（1ペテロ1章8節から9節）あの時の感動は今も鮮やかに甦ります恵みにあふれています。信仰によって与えられた平安と喜びです。仕事を終え、古希を迎えました。いよいよ神の国が近づいてきました。キリストの十字架と復活の信仰を堅持し、

みことばに聴きとりなしの祈りのできる信徒として養われていきたいと願っています。

第47回九州アシラム報告

鯨島 則雄

二〇一二年九月一六日（日）

一七日（月）の両日、会場としてすっかり定着した感のある宗像市のカトリック『黙想の家』に二二名の持友が福岡、長崎、大分、山口の四県から集い開催されました。『主の家に住む幸い』〜真理の内に導きたまえ〜と題して、岡山敦彦師（同盟基督・大分恵み教会）に助言者として導いていただきました。静聴の時①②では詩編二五編、二七編から各自が静聴の中で示され、恵まれたことを各グループで分かち合い、福音の時①②ではマタイ福音書二〇章と詩篇二三編をテキストに、岡山先生が永年の教会生活の中に注がれた主の恵みを分かち合ってくださいました。神学校卒業時に描いていた計画とは真逆の開拓伝道を命じられ、北九州の小倉で塾の経営、夫人は病院勤務をされながら開拓に励まれ、時至り「小倉中央キリスト教会」と命名した会堂を北九州の南区に献堂できたことを伺いました。恩師は「小倉ハズレ教会じゃないか」と言われそうですが、



この話を参加者は感動をもって拝聴し、大いに力をいただきました。詩篇二三編からは、ダビデが「死の陰の谷を歩く」試練の中で体験した神の恵みが謳われていること、失敗を恐れず歩む中でそこに見えてくる他者との心の痛みを共有することの大切さを学びました。いつも明るく接して下さる岡山師の背景に多くの試練があり、その試練を通して体験された主の恵み、真理の豊かさを学びました。また無牧師となっていた佐世保の教会伝道所に鍋倉委員長が講壇のご奉仕をされた関係で前回、今回と数名が参加されたのですが、感

謝なことに二つの群れ共に主の御手が伸ばされ、それぞれに牧師が与えられたことを感謝と喜びの内に証しされていきました。

今回も参加者の中の一姉妹が献身を決意され、現在米国の神学校で感謝の内に学んでおられます。確かに主は全地を見渡され、ご自分と心を一つにする者を力づけようとしておられるのをこのような形で見せていただき、アシラムの働きがさらに用いられることを心から期待するものです。

第20回東京新生教会アシラム

横山 基生

私たちの教会のアシラムは、毎年2月の第三聖日にかかる土日にを行っています。今年の2月で第20回となりました。毎年、その年の恵みが豊かにあったことを覚えます。今年のアシラムには、日本基督教団西川口教会の皆川時男さんがゲストとして来ていただきました。西川口教会は横山義孝師が最初に開拓した教会ということもあり、皆川兄の他に3名も同教会から参加者が与えられ、また義孝師の母教会である浦和別所教会からも1名礼拝に参加してくださいました。アシラムのファミリーとしての交わりが、まさに豊



かに与えられた第20回となりました。しかし、大きな課題が鮮明になったことも確かでした。それは、教会員の高齢化等により、土曜日の夜7時からの開心とその後の分団に出られる人が極端に少なくなったということでした。今まで、3分団に分けられる人数が土曜日から与えられてきましたが、今回はたった一分団しか作れませんでした。今後、アシラムのプログラムの立て方に工夫が必要になってきたわけです。日曜日だけのアシラムでは、あまりにも時間が少ないと思われています。このような中にも、連鎖祈

名前をリストに書くことが出来たことは、本当に素晴らしいことでした。アシラムは「祈りの運動」であると教えられています。過去20回の継続的なアシラムの開催を通して、信徒それぞれに祈りの習慣が豊かに培われて来たことの証であることを知り、主のみ名を賛美しています。アシラムの持ち方がプログラムの上で変わったとしても、その精神が年一回のアシラム当日だけでなく、毎週毎週の礼拝の中で、また信徒一人一人の日々の生活の中にさらに豊かに根付き実を結ぶことができるように、私たちの教会のために祈っていただけると大変感謝です。

「地区アシラム予告」

- 第32回横濱岡村アシラム
とき 13年7月13(出)14(日)
テーマ 「わたしを支えているもの」
助言者 有馬歳弘師(日キ教団青梅教会牧師)
- 第51回関東アシラム
とき 13年9月16(月)18(水)
ところ 山崎製パン箱根山荘
テーマ 「私にゆだねられたもの」
助言者 島 隆三師(日キ教団仙台青葉荘教会牧師)
- 第48回九州アシラム
- 第5回函館栄光キリスト教会アシラム
とき 13年10月13(日)14(月)
テーマ 「なおも望みを抱いて信じ」
助言者 有馬歳弘師(日キ教団青梅教会牧師)
- 第4回仙台台アシラム
とき 13年9月27(金)29(日)
テーマ 「キリストの平和」
助言者 榎本 恵師(「近江」アシラム主幹牧師)
- 第47回関西アシラム
とき 13年9月22(日)23(月)
ところ 母の家ベテル
テーマ 「神の国の体験と献身」
助言者 工藤弘雄師 同須美子師(日本イエス・キリスト香登教会牧師)
- 第49回関西アシラム
とき 13年9月22(日)23(月)
ところ 「福岡黙想の家」
テーマ 「神の国を受け継ぐ者として」
助言者 鍋倉勲師(バプ連福岡南教会協力牧師)

〒一八一〇〇一一 三鷹市井口3-15-6
池の上キリスト教会内
日本クリスチャン・アシラム連盟
振替口座 東京〇一〇〇一四五五八